

## 疑似疑問表現に見られるホ °ライトネス : 「認識喚起」としての文末型“是不是”構文に注目して

楊, 明  
九州大学大学院地球社会統合科学府

<https://doi.org/10.15017/4377907>

---

出版情報 : 地球社会統合科学. 27 (2), pp.1-15, 2021-02-15. 九州大学大学院地球社会統合科学府  
バージョン :  
権利関係 : (c) 2021 Yang Ming

## 疑似疑問表現に見られるポライトネス

### — 「認識喚起」としての文末型“是不是”構文に注目して—

Politeness in Pseudo-question:

Focusing on Chinese “Shi Bu Shi” Sentence-final Construction as “Arousing Recognition”

楊明

#### 要旨

This paper focuses on the most prototypical usage of the pseudo-question “Shi bu shi” sentence-final construction and discusses its forms and functions from the viewpoint of politeness in Brown & Levinson (1987). “Arousing recognition” is an instruction sentence which implies the intention of invitation and suggestion, while taking the form of question explicitly. According to B & L (1987), it can be “a way of suggestive clarity implicitly”. When the speaker uses the “Shi bu shi” as “Arousing recognition” to present the opinion, he expresses his reasons for positive and euphemism by using connection representation. Moreover, it is shown that the speaker emphasizes fellow consciousness or express general kindness by adding “name” and “relative name” to the familiar person, by using “social common name” to the person in the first meeting before and after “Shi Bu Shi”. It is applied to positive politeness in B & L (1987) and is considered to act as mitigation of the threat of the FTA. In addition, when the speaker solicits and proposes to social status higher than him by using “Shi Bu Shi”, he selects the “position name” to express his respect. Such an expression is considered to be the result of negative politeness in B & L (1987).

キーワード：疑似疑問、文末型“是不是”、接続表現、共起表現、ポライトネス

#### 1. はじめに

疑似疑問表現は疑いが消滅化・希薄化しているから相手に認識や追認や同意を求めるといった問いかけの文であり(仁田1991:154)、中国語文末型“是不是”構文はその一つに数えられる。話し手(以下、S)が文末型“是不是”を用い、どのような思想・感情・意志等の情報を表現し伝達しているのか、聞き手(以下、H)がSのそれをどのように受け入れ、理解しているのかということは興味深いものである。

従来の先行研究では、文末型“是不是”構文に関して、その定義及び帰属などを中心に行われた優れた記述的研究の結果が積み重ねられてきたが、その形式と機能に注目する語用論的研究は管見の限り少ない。楊明(2018)は、コーパスにおける“是不是”構文を研究対象にその意味分布の分析を行った結果、“是不是”構文を、文頭型“是不是”構文、文中型“是不是”構文、文末型“是不是”構文という三つのパターンに再分類できることを明らかにした。また、それぞれの実例を挙げ、それらの意味の違い及びブスコープについて記述的な分析を試み、文末型“是不是”構文の用法が「単なる質問をする」の中心義から「已然のことを確認する」「命令・勧告する」「感情的語感/感嘆を表現する」などの用法に拡張されていると推測した。しかし、文末型“是不是”構文の形式と機能に注目する考察は不十分であると考えられる。さらに、文末型“是不是”構文を研究対象とした楊明(2020)では、森山(1989)と木村・森山(1992)の話者の情報依存関係により、文末型“是不是”構文を「S情報不確定・H情報依存」の無標的(unmarked)疑問用法と「S情報確定・H情報依存非依存」の有標的(marked)疑問用法という2パターンに分類した。それに加え、蓮沼(1995)の分類と定義を参考にし、無標的疑問用法を「命題質問」と名付け、有標的疑問用法を「推量確認」「認識喚起」「認識要請」と分類した。そのうち、「認識喚起」の使

用率が最も高いことは明らかになった。しかし、最も典型的な用法である「認識喚起」に焦点を当ててその形式と機能を詳しく検討することができなかった。

したがって、本研究は、研究背景を踏まえた上で、先行研究の不足を補充し、筆者の初期研究における問題点を解決するという立場を取っている。疑似疑問表現中国語文末型“是不是”構文における「認識喚起」という用法に注目し、典型的な用例を取り上げ、Brown, P., and S. C. Levinson. (1987) (以下、B & L (1987)) における語用論・ポライトネスの観点からその構造形式と意味機能を総体的に考察することを目的とする。

本研究では現代中国語における文末型“是不是”構文を研究対象として考察を行う。まず、「文末型“是不是”」という用語を採用する理由について説明する。宇都(2003:1-2)では、「陳述形式に“是不是”を加えて形成された疑問形式」を「確認性疑問形式」と呼び、さらにその「確認性疑問形式」を「文成分型」(“是不是”が文頭または文中に位置するタイプ)と「追加型」(“是不是”が文の後方に位置するタイプ)と大別する。中田(2015)では、“是不是”が文頭または動詞の直前に位置する場合と文の後方に位置する場合に分け、前者を「文中型“是不是+VP”構文」、後者を「文末型“是不是+VP”」(“是不是”の前に停頓がある場合とない場合の両方を含む)と呼ぶことにした。曹泰和(2018)では、“是不是+VP”構文を「文頭」「文中」「文末」「単独」という四種類に詳しく分けた。本研究では“是不是”の命名及び帰属について検討するものではない為、中田(2015)と曹泰和(2018)における名称を援用し、文末型“是不是”構文(平叙文の文末に“是不是”が付け加える文(「～, 是不是?」「～是不是?」「～. 是不是?」「～, 是不是,」を含む))と呼ぶことにする。次に、「“是不是”構文」という名称を採用する理由について説明する。中田(2015:2)では、「“是”によって形成される構文や文脈によって、多様な意味が付与される」ので、「“是”に多くの意味を帰属させるという状況を避ける」ために、Goldberg(1995:4)の構文文法(Construction grammar)を参考し、「“是”をより大きな構造のまとまり、つまり『構文』(construction)の枠組みで捉え、その意味と機能を探る」としている。本研究では、中田(2015:2)の指摘を援用し、文末型“是不是”の表現形式を「文末型“是不是”構文」と呼ぶことにする。

本研究では北京大学中国語学研究中心が開発した《現代汉语語料庫》(CCL)と追加文学小説テキストを利用してデータを収集する。資料選定の基準は、「現代中国語」「現代文学」「当代文学」「小説における会話文」「前後文脈が明瞭であるもの」「重複用例除外」というポイントである。CCLと追加文学小説テキストにおいて、合計それぞれ57冊と27冊の文学小説から用例を抽出した。研究資料の詳細(作者名・小説名・創作年代)を表1に示す(作者名アルファベット順)。

表1：研究資料の詳細

CCL					
作者名	小説名	年代	作者名	小説名	年代
艾芜	《冬夜》	1943	老舍	《兔》	1939
冰心	《“无限之生”的界线》	1920	老舍	《蛻》	1938
曹禺	《雷雨》	1934	老舍	《歪毛儿》	1933
老舍	《不成问题的问题》	1944	老舍	《文博士》	1940
老舍	《残雾》	1940	老舍	《西望长安》	1956
老舍	《茶馆》	1958	老舍	《小坡的生日》	1934
老舍	《春华秋实》	1953	老舍	《新时代的旧悲剧》	1948
老舍	《大悲寺外》	1934	老舍	《一筒炮台烟》	1944
老舍	《东西》	1939	老舍	《裕兴池里》	1939
老舍	《二马》	1931	老舍	《赵子曰》	1928
老舍	《方珍珠》	1950	骆宾基	《一九四四年的事件》	1946
老舍	《鼓书艺人》	1949	茅盾	《林家铺子》	1932
老舍	《黑白李》	1934	茅盾	《子夜》	1932
老舍	《火葬》	1944	茅盾	《蚀》	1930
老舍	《开市大吉》	1934	钱钟书	《猫》	1945
老舍	《老张的哲学》	1928	钱钟书	《魔鬼夜访钱钟书先生》	1941
老舍	《邻居们》	1935	钱钟书	《围城》	1947

老舍	《柳树井》	1952	沈从文	《白魔》	1949
老舍	《柳屯的》	1956	夏衍	《脂粉市场》	1933
老舍	《龙须沟》	1950	萧红	《生死场》	1935
老舍	《猫城记》	1933	叶圣陶	《晨》	1926
老舍	《牛天赐传》	1934	叶圣陶	《橈夫子》	1946
老舍	《且说屋里》	1937	张爱玲	《红玫瑰与白玫瑰》	1944
老舍	《人同此心》	1939	张爱玲	《连环套》	1944
老舍	《杀狗》	1939	赵树理	《李家庄的变迁》	1946
老舍	《上任》	1947	赵树理	《三里湾》	1955
老舍	《四世同堂》	1944	赵树理	《小二黑结婚》	1943
老舍	《听来的故事》	1936	周立波	《暴风骤雨》	1948
老舍	《同盟》	1934			
追加文学小説テキスト					
作者名	小説名	年代	作者名	小説名	年代
阿耐	《欢乐颂》	2016	六六	《蜗居》	2007
艾米	《山楂树之恋》	2007	刘猛	《利刃出鞘》	2012
常琳	《北京青年》	2012	路遥	《平凡的世界》	1986
高满堂， 孙建业	《闯关东》	2009	麦家	《风声》	2007
高璇， 任宝茹	《我的青春谁做主》	2009	缪娟	《翻译官》	2006
郭宝昌	《大宅门》	2003	莫言	《红高粱》	1986
海岩	《便衣警察》	1985	慕容余华	《我们生活的年代》	2008
海岩	《拿什么拯救你，我的爱人》	2001	盛和煜，张建伟	《走向共和》	2003
海岩	《你的生命如此多情》	1999	石康	《奋斗》	2007
海岩	《永不瞑目》	1998	石钟山	《军歌嘹亮》	2002
海岩	《玉观音》	2000	唐欣恬	《裸婚》	2010
兰晓龙	《士兵突击》	2006	俞智先，廉越	《走西口》	2009
兰晓龙	《我的团长我的团》	2009	周梅森	《人民的名义》	2017
李晓兵	《生存之民工》	2005			

なお、用例を引用する場合、“是不是”の前後の文脈をより明瞭にするために、中国語原文の下に筆者訳を付き、用例を挙げて説明する際に文脈を考慮して解釈を行う。先行研究の引用には、直接引用の場合に必要なに応じて拙訳を付す。ただし、既存の訳がある場合は訳者の氏名及び訳本の出版年を明記することとする。それに、例文の意味解釈に差し支えないということを前提にし、議論を複雑にしないように文末型“是不是”構文は全て「(そう)だろう」系に訳す。その理由は、張恵芳(2008:103)における「文体や発話の場などにより、『だろう』は『でしょう』・『でしょ』・『～たろう』などの形式を取る」ことがあり、「論述の便宜上、『だろう』で一括する」と言う議論を参考したということである。要するに、本文中では、以下のように原文、出典、日本語訳を記す。

(用例の番号)：

---原文---

(著者名《書名》)

(---日本語訳---)

## 2 「認識喚起」の構造と形式に関する分析

本節では、抽出したデータに基づいて、「認識喚起」におけるマクロ的な構造形式(配列表現)とミクロ的な構造形式(接続表現と共起表現)の出現分布の数量的な要約を行い、用例数と割合を算出し、その構造と形式について分析を行う。割合を示す場合、小数点以下第二位を四捨五入している為、合計が100%にならない場合もある。

### 2.1 マクロ的な構造形式(配列表現)

合計299例の「認識喚起」の関連データを収集した。観察されたマクロ的な構造形式である配列表現は図1に示すように、「OR」型(「主張(以下、O)提示+理由(以下、R)提示」型)が130例(43.48)あり、「O」型(「主張提示」型)が112例(37.46)、「R」型(「理由提示」型)が57例(19.06)あることが分かった。そのうち、「OR」型の比率が最も高いことが確認された。

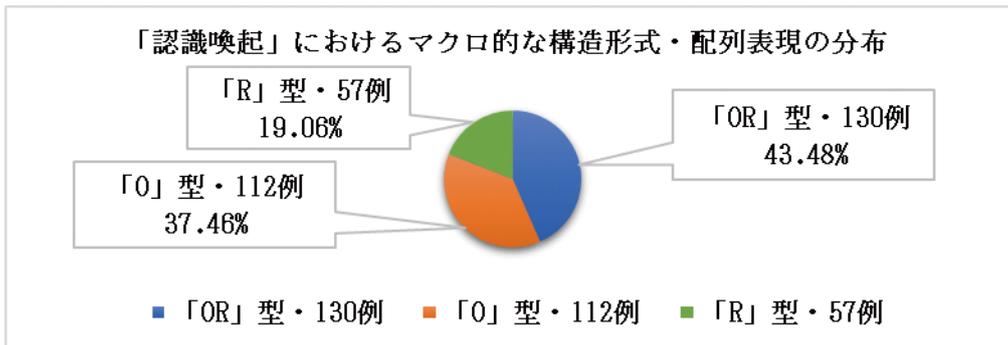


図1：「認識喚起」におけるマクロ的な構造形式・配列表現の分布

SとHとの主張の異同による分析を行った結果、次のことが明らかになった。まず、SとHとの主張が一致する場合(以下、S=H)では、理由をつけない「O」型がよく用いられる。次に、Hの主張が不明である場合(以下、H=?)では、「O」型と「OR」型がよく使用される。主張だけを提示するか、主張と理由を両方提示するか、相手に同意を求めたり、共鳴を求めたりする。最後に、SとHとの主張が不一致の場合(以下、S≠H)では、「OR」型がよく出現することも明らかになった。自分の意見を述べるだけでなく、理由あるいは根拠を相手に説明しながら勧誘・提案を遂行させる必要があると考えられる。SとHとの主張の異同による「認識喚起」の配列表現の分布を図2に示す。

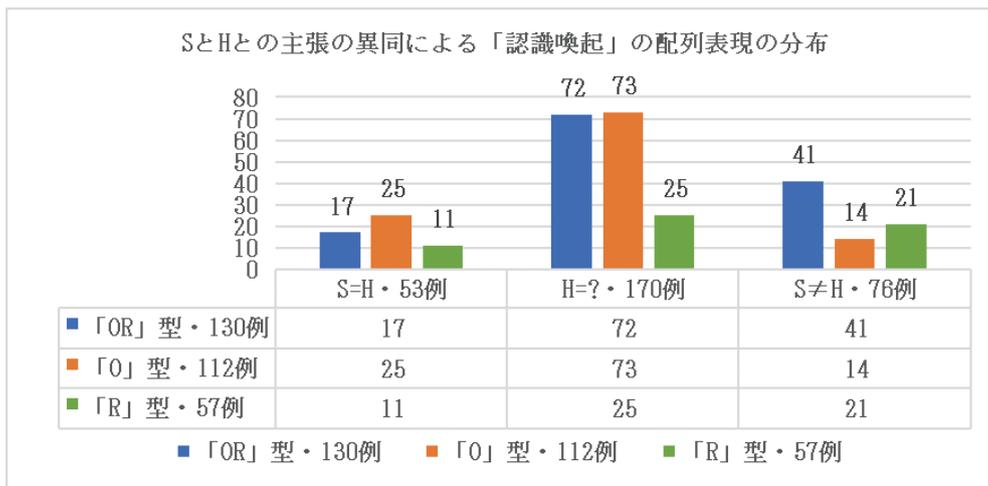


図2：SとHとの主張の異同による「認識喚起」の配列表現の分布

### 2.2 ミクロ的な構造形式・接続表現

観察されたミクロ的な構造形式は接続表現(174例; 58.19)と共起表現(142例; 47.49)という2種類であり、どちらも出現頻度が高いことが明らかになった。

174例の接続表現に、「同列」型(57例; 31.03)、「逆接」型(48例; 27.59)、「順接」型(37例; 21.26)、「添加」型(28例; 16.09)、「対比」型(4例; 2.30)、という5種類が観察された。

「認識喚起」における「同列」型の種類と用例数の内訳を表2に示す。一つの事柄に関係した文の拡充的合成関係には「同列型」「補足型」「連鎖型」があり、その中で、「同列型」とは後文に前文の内容と同等とみなされる内容を重ねて述べる型である(市川1978: 89-93)。20種類の「同列」型のうち、「万一」(3例)・「要是」(9例)・「倘若」(1例)・「假如」(1例)・「要」(9例)・「若」(1例)・「假若」(2例)・「假定」(1例)・「如果」(2例)(いずれも「仮に」の意味に相当する)、「不然」(1例)(「そうしないと」の意味に相当する)、「就是」(6例)・「即使」(2例)(両者とも「たとえ…しても」の意味に相当する)は、後文が前文の内容に対する仮定を表す。また、「好比」(1例)(「例えば」の意味に相当する)、「尤其」(1例)(「特に…の場合」の意味に相当する)は、後文が前文の内容に対する例証を表す。そして、「这就是说」(1例)(「すなわち」の意味に相当する)は、後文が前文の内容に対する総括・換言を表す。さらに、「一…」(10例)(「…の場合」・「…たら」の意味に相当する)、「除非」(1例)(「でなければ」の意味に相当する)、「只(自)要」(4例)(「…限り」・「さえすれば」の意味に相当する)、「既」(1例)・「既然」(1例)(両者とも「すでに」の意味に相当する)は、後文が前文の内容に対する限定・条件を表す。

表2:「認識喚起」における「同列」型接続表現の内訳

内訳	用例数	内訳	用例数	内訳	用例数	内訳	用例数
一…	10	万一	3	倘若	1	假定	1
要	9	假若	2	不然	1	既然	1
要是	9	如果	2	好比	1	既	1
就是	6	即使	2	若	1	除非	1
只(自)要	4	假如	1	尤其	1	这就是说	1

「認識喚起」における「逆接」型の種類と用例数の内訳を表3に示す。二つの事柄を述べる文の論理的結合関係において、「順接型」と「逆接型」があり、「逆接型」とは前文の内容に反する内容を後文に述べる型である(市川1978: 89-93)。11種類の「逆接」型のうち、「可是」(24例)・「不过」(8例)・「可」(5例)・「但是」(2例)・「但」(2例)・「倒」(1例)・「就是」(1例)(いずれも「しかし」の意味に相当する)は、後文が前文の内容とは反対の単純な逆接を表す。「反倒」(1例)・「反而」(1例)・「倒是」(1例)・「而」(2例)(いずれも「それなのに」・「しかるに」の意味に相当する)は、意外・背反を表す。

表3:「認識喚起」における「逆接」型接続表現の内訳

内訳	用例数	内訳	用例数	内訳	用例数	内訳	用例数
可是	24	但是	2	倒是	1	就是	1
不过	8	但	2	反而	1	反倒	1
可	5	而	2	倒	1		

「認識喚起」における「順接」型の種類と用例数の内訳を表4に示す。二つの事柄を述べる文の論理的結合関係において、「順接型」と「逆接型」があり、「順接型」とは前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる型である(市川1978: 89-93)。9種類の「順接」型のうち、「就」(16例)・「才」(6例)・「然后」(3例)・「便」(2例)・「则」(1例)・「再」(1例)・「乃」(1例)・「这样」(2例)(いずれも「それで」・「すると」の意味に相当する)は、後文が前文の順当・きっかけを表す。「所以」(5例)(「だから」の意味に相当する)は、後文が前文の結果を表す。

表4:「認識喚起」における「順接」型接続表現の内訳

内訳	用例数	内訳	用例数	内訳	用例数
就	16	然后	3	则	1
才	6	便	2	乃	1
所以	5	这样	2	再	1

「認識喚起」における「添加」型の種類と用例数の内訳を表5に示す。二つ(以上)の事柄を述べる文の多角度的連続関係において、「添加型」と「対比型」と「転換型」があり、その中で、「添加型」とは前文の内容に付け加わる内容を後文に述

べる型である(市川1978:89-93)。15種類の「添加」型のうち、「再说(了)」(4例)・「而且」(3例)・「况且」(2例)・「还要」(2例)・「还」(2例)・「又要」(1例)・「何况」(1例)・「还有」(1例)・「再者」(1例)(いずれも「その上」・「さらに」の意味に相当する)は、後文が前文の内容に対する単純な累加・追加を表す。「一来…二来」(2例)・「既…又」(3例)・「又」(3例)・「不光…也」(1例)・「不论…还是」(1例)・「一方面…另一方面」(1例)(いずれも「一つは…もう一つは」の意味に相当する)は、後文が前文の内容に対する並列を表す。

表5:「認識喚起」における「添加」型接続表現の内訳

内訳	用例数	内訳	用例数	内訳	用例数	内訳	用例数
再说(了)	4	一来…二来	2	不光…也	1	又要	1
又	3	况且	2	不论…还是	1	何况	1
而且	3	还要	2	一方面… 另一方面	1	还有	1
既…又	3	还	2			再者	1

「認識喚起」における「対比」型はわずか4例あることが分かった。二つ(以上)の事柄を述べる文の多角的連続関係において、「添加型」と「対比型」と「転換型」があり、その中で、「対比型」とは前文の内容に対して対比的な内容を後文に述べる型である(市川1978:89-93)。「还不如」(2例)と「还是」(2例)(両者とも「…というより、むしろ」の意味に相当する)は、後文が前文の内容に対する選択・比較を表す。

他用法と対比した結果、「認識喚起」における接続表現は出現頻度が顕著に高いことが分かった(「命題質問」は14.08%、「推量確認」は22.58%、「認識要請」は17.21%である)。

### 2.3 ミクロ的な構造形式・共起表現

「認識喚起」における共起表現に、「呼称詞」型(65例;45.77)、「人称代名詞+動詞」型(54例;38.03)、「人称代名詞+動詞+呼称詞」型(21例;14.79)、「呼称詞+動詞」型(2例;1.41)、という4種類が観察された。

142例の共起表現において、「呼称詞」型(65例;45.77)の使用率が最も高く、「氏名」「役職名称」「親族名称」「社会通称」という4種類があり、その種類と用例数の内訳を表6に示す。そのうち、「三元」(三元)、「老杨」(楊さん)「小胖子」(ポッチャリ子)「宝贝儿」(ハニー)などの「氏名」が32例あり、「张司令」(張司令)、「班长」(班長)、「少东家」(若旦那)などの「役職名称」が13例あり、「爸」(お父さん)、「我的太太」(女房)、「儿子」(息子)などの「親族名称」が10例あり、「老太太」(お婆)、「弟兄们」(男同士が親しい仲間を呼ぶ語)、「同志」(同志)などの「社会通称」が10例あることが分かった。

表6:「認識喚起」における「呼称詞」型共起表現の内訳

種類・用例数	内訳
氏名・32	後置25:三元8、春子2、一郎2、老曲1、老杨1、亮平1、文玉1、芳蜜1、小胖子1、秀华1、招弟1、达灵1、宝贝儿1、小宁1、老二1、子老1 前置7:仲翁1、娴1、小邱1、三元1、李家娘1、秋柳1、鸿渐1
役職名称・13	後置11:巡长1、张司令1、西门爵士1、王副会长1、局长1、连长1、班长1、少东家1、我们黄原未来的金作家1、伊牧师1、白大爷1 前置2:八爷1、团座1
親族名称・10	後置8:爸1、哥1、大哥1、父亲1、爹1、妈1、我的太太1、儿子1 前置2:娘1、赵叔叔1
社会通称・10	後置7:老太太3、诸位1、祁先生1、弟兄们1、同志1 前置3:汪先生1、苏小姐1、高先生1

142例の共起表現において、「人称代名詞+動詞」型(54例;38.03)が11種類あり、その種類と用例数の内訳を表7に示す。そのうち、第二人称代名詞「你」と動詞「说」(「君」と「言う」と「是不是」とのフレーズが29例あり、割合が最も高いことが分かった。他には、第二人称代名詞の敬称「您」(あなた)と複数形「你们俩」(君二人)など、動詞の「看」(見る)「想」

(思う)なども観察された。

表7:「認識喚起」における「人称代名詞+動詞」型共起表現の内訳

人称代名詞	你	你们	您	你	你	我	你	您	您	你们俩	你们
動詞	说	说	说	看	瞧	说	想	看	想	说	瞅瞅
+ “是不是”											
用例数	29	7	5	4	2	2	1	1	1	1	1

142例の共起表現において、「人称代名詞+動詞+呼称詞」型(21例; 14.79)が「呼称詞+你+说+“是不是”」「呼称詞+你+看+“是不是”」「你+说+“是不是”+呼称詞」「你+呼称詞+看+“是不是”」という4種類あり、その種類と用例数の内訳を表8に示す。そのうち、「呼称詞+你+说+“是不是”」が13例あり、「呼称詞+你+看+“是不是”」が4例あり、「你+说+“是不是”+呼称詞」が3例あり、「你+呼称詞+看+“是不是”」が1例あることが分かった。

表8:「認識喚起」における「人称代名詞+動詞+呼称詞」型共起表現の内訳

種類	内訳
呼称詞+你+说+“是不是”	社会通称: 张先生2、马师傅1、先生1、方太太1、兄弟1、乡亲1 役職名称: 阿译营座1、侯局长1、八爷1 親族名称: 大哥1、梅丽姊1 氏名: 仲翁1
呼称詞+你+看+“是不是”	氏名: 三元1、老姜1 役職名称: 总…所长1 親族名称: 二叔1
你+说+“是不是”+呼称詞	親族名称: 大哥1、儿子1 氏名: 秋丫头1
你+呼称詞+看+“是不是”	社会通称: 老人家1

142例の共起表現において、「呼称+動詞」型(2例; 1.41)の出現率が最も低く、「大伙+说+“是不是”」(「みなさんが言えばそうだろう」の意味に相当する)と「弟兄们+说+“是不是”」(「我が友が言えばそうだろう」の意味に相当する)は1例ずつあることが分かった。

また、他用法と対比した結果、「認識喚起」における共起表現は頻繁に使用される傾向が見られた(「命題質問」は2.82%、「推量確認」は2.15%、「認識要請」は確認されなかった)。

### 3 「認識喚起」の意味と機能に関する考察

#### 3.1 「認識喚起」に見られる伝達(transaction)

B&L(1987)では、どの文化であれ、言語コミュニケーションの中で行われる伝達(transaction)は明示的な遂行的行為(performative acts)で明らかにされることが多く、その一方、暗示的にその伝達が明瞭される仕方(manner)もあると指摘している。例えば、勧誘・提案・依頼という意図が伝達される時に、直言することによってよりも、「発話の言語的詳細から間接的に認識される」と主張している(田中2011:73)。

「認識喚起」において、話者が文末型“是不是”を用いることで、明示的に質問という形を取りながら暗示的に勧誘・提案という意図を相手に伝達する。(1)では、S(「奇点」)はH(「安迪」)が自分の話に「はい」と答えることを求めるだけでなく、自分のO(「不必急着逃避熟悉的环境去美国(急いで慣れた環境から離れてアメリカへ行く必要がない)」「你别走(行かないで)」)を遂行することも求める。また、(2)では、S(「龚丰仓」)がH(「田青」)に、「不要客气(遠慮しないで)」、つまり、その「一张饼(餅一個)を食べてください」と言うOを遂行させる。こうした「認識喚起」は、B&L(1987)の論説に従うと、「暗示的にその伝達が明瞭される仕方(manner)」の一種であると言えるだろう。

(1)

奇点只能哭笑不得地看着安迪，反而出言宽慰，“你觉得怎么舒服就怎么做吧。但起码有一点我昨晚没说错，你今早方言骂人了也没怎么样，说明你比你想象中能扛。〔所以你不必急着逃避熟悉的环境去美国，O〕国内乱哄哄有乱哄哄的好，挺好玩挺刺激，是不是？〔我希望你别走。O〕也为老谭劝你一句，不要让好朋友失望。”

安迪想了很多，直到上了车，听到奇点提醒她系上安全带，所有的坚持稀里哗啦全崩溃了。

(阿耐《欢乐颂》)

(奇点は泣き笑いながら安迪を見ていることしかできず、逆に慰めた。「君が好きなようにしたら良いよ。でも、少なくとも僕が言ったことに間違いはないよ。今朝方言で悪口を言っても大丈夫だったんだから、君は自分が思っているより強いんだよ。〔だから急いで慣れた環境から逃げて米国に行く必要はない。O〕国内は騒がしいけど利点もあって、面白くて刺激的、そうだろう。〔行かないでほしい。O〕譚さんのために忠告するけど、仲が良い友達をがっかりさせないで。〕」

安迪は長い間考えた。車に乗り、奇点のシートベルトを締めるように注意する声で、これまで持ち堪えていたものが一気に崩れた。)

(2)

龔丰倉对店小二说：“伙计，给他们每个人加一张饼，记在我的账上。”田青不好意思，忙阻拦。

“〔我叔叔请客，你们就不要客气了。O〕我们认识一天了，又都是走西口的大同乡，就算是朋友了。在家靠父母，出外靠朋友嘛！谁知道谁什么时候遇到什么难处需要别人帮忙？是不是？”

大家重新落了座。小二送过粥和饼，大家吃起来。

(俞智先，廉越《走西口》)

(龔豊倉は店員に言った。「お兄さん、彼らに一人一つずつお餅を追加して、私の勘定に記入して。」田青は恥ずかしくて、断ろうとしている。

「〔おじさんが奢るから、遠慮しないで。O〕私たちは知り合って一日で、西口行きの同郷である。友達だよ。家では両親を頼りにし、外に出ると頼りにできるのは友達だよ！誰かいつ何か困ったことがあったら、他の人に助けてもらうべきだろう。そうだろう。」

皆は再び席に着いた。店員はおかゆとお餅を運び、皆はそれを食べ始めた。)

### 3.2 「認識喚起に見られるポジティブ・ポライトネス (positive politeness)

B & L (1987) によると、話者が勧誘・提案という意図を相手に伝達しようとする時の提案・依頼の程度により、使用する仕方 (manner) も異なる。軽く提案・依頼する場合、「仲間であることや社会的類似性を強調する」ような言語を用い；重く提案・依頼する場合、「改まったポライトな言語」を使用し；躊躇する場合、「間接的な表現 (含意 (implicature))」を利用する傾向があるとしている。「認識喚起」においてもこのような使用の異なりが明らかになった。即ち、場面によって話者が文末型“是不是”を用い相手に意図を伝達するために、ポライトネス (politeness) の方略を工夫する様子が見えがえた。

S = H の場合、「O」型が多く用いられ、主張提示だけで伝達意図が達成できる。H = ? の場合、「OR」型と「O」型が多く利用され、主張提示すること、または理由を付け加えることが必要である。さらに、さらに複雑な場合、即ち S ≠ H の場合では、不一致を一致にするために、主張に理由付ける「OR」型が圧倒的に多いことが確認された。言い換えると、話者が文末型“是不是”を「認識喚起」として用いる時に、主張を提示する以外に仮定の例を挙げたり、対比の例を挙げたり、というような接続表現を使うことで、積極的かつ婉曲的に自分の理由を述べているということである。

このような方略は、B & L (1987) におけるポジティブ・ポライトネス (positive politeness) に当たると考えられる。具体的に述べると、「S と H は協力者であることを伝えよ」というメカニズムにおいて、ストラテジー 13「反射性を主張せよ：理由を述べよ (もしくは尋ねよ)」という部分に該当すると考えられる。相手に自分の主張を遂行させる際に、話者が「なぜ自分がその欲求を持つのかについて理由を述べる」ことは重要であり、「自らの実践的推論に H を取り込み、反射性 (H は S の欲するものを欲していること) を想定することにより、H は S の FTA に妥当性を見出す」ことになる (田中 2011 : 176)。(3) は H = ? の場合の用例である。S (「郝凤鸣」) が H (「鹿书香」) に自分の O「即使一点实权拿不到，也跟他们苦腻

(少しの実権さえ得られなくても、彼らと一緒に苦労する)」を伝達するために、“是不是”の前に「添加型」の接続表現「一來…二来… (一つ目は…二つ目は…)」を用いて厳密に理由を述べている。結果として、相手がS(「郝凤鸣」)のRを認め、そのOに同意し、肯定的な回答をした。

(3)

鹿书香哑摸着味儿点了点头：“……现在的问题是我还是就职呢，还是看看再说？”

“土地局的计划是我们拟就的，你要是连副局长都推了，岂不是连根儿烂？”郝凤鸣好似受了鹿书香的传染，也连连的眨眨眼。“据我看，[即使一点实权拿不到，也跟他们苦赋。O][这，一采是不得罪犬稜，二采是看机会还得把局长抓过来，R) 是不是？”

“也有你这么一说，也有你这么一说，”鹿书香轻轻的点着头。

(老舍《东西》)

(鹿书香は吟味しながら頷いた。「…現在の問題は私が就職するか、それとももう少し考えようか。」)

「土地局の計画は私たちががしたし、もしあなたが副局長までやめてしまうなら、根っこまでボロボロになるのではないか。」郝鳳鳴は鹿書香の癖がうつったように、しきりにまばたきをする。「私の見るところでは、[少しの実権さえ得られなくても、彼らと一緒に苦労する。O][これは、一つ目は、は犬稜を怒らせないからで、二つ目はタイミングを見て局長を捕まえるから、R) そうだろう。」

「あなたが言ったこともある、そう言ったこともある、」鹿書香は軽く頷く。

(4) は  $S \neq H$  の場合の用例である。H(「何南」)が契約書にサインするかどうか迷っている為、サインするつもりであるS(「何北」)との立場が不一致である。S(「何北」)が「咱们给签了吧(サインしよう)」という自分のOを提示した。自分のOに同意して遂行させる為に、S(「何北」)が「要不人上别的项目，白白把赚第一桶金的机会给放过了(もし彼が他のプロジェクトに行ったら、無駄にひとまとまりの金を稼ぐ機会を逃してしまう)」という一つの理由(「R1」)を先に挙げた。そして、円滑的に発話の意図を達成する為に、もう一つの理由(「R2」)として、「资产证明在那儿摆着，加拿大银行不可能出具假证明(資産証明書があそこに並べられて、カナダ銀行が偽証明書を発行する可能性はない)」という話をした。結果的に、相手がS(「何北」)のR1とR2を認め、そのOに同意し、「是(はい)」とはっきり回答した。

(4)

何北看出他的心思，所以劝他：“[咱们给签了吧？O][要不人上别的项目，白白把赚第一桶金的机会给放过了。R1][你说咱有什么可担心的？资产证明在那儿摆着，加拿大银行不可能出具假证明，R2) 你说是不是？”

何南说：“是。”

(常琳《北京青年》)

(何北は彼の心を見抜き、説得を始めた。「[サインしようか。O][もし彼が他のプロジェクトに行ったら、無駄に一まとまりの金を稼ぐ機会を逃してしまうよ。R1][何か心配なことあるわけないだろう。資産証明書があそこに並べられて、カナダ銀行が偽証明書を発行する可能性はない、R2) あなたが言うとうそうだろう。」

何南は言った。「はい。」)

“是不是”が省略されても、文の意味には変化がなく、HはSの意図を理解できる。その“是不是”が存在するのは、「協力可否尋ねる手段」であるからに他ならない。勧誘・提案という行為自身はSの欲求・フェイスを満たす行為であり、S側の利益になるものである。しかしながら、「認識喚起」の用例を観察すると、SにもHにも両方にとって利益になる場合が多いことが分かった。つまり、「互惠」という観点から戦略に配慮することも重要であると考えられる。なぜかと言うと、「もし話し手が、勧誘する相手が話し手の欲求通りにやりそうにもないことを想定しているのなら、相手に問かけることもない」からである(許夏玲2017:87)。換言すれば、「こうすれば、あなたの助けになるよ」「こうすると、私の助けになるよ」「こうしないと、あなたの損になるよ」のように、Hを満足させ、Hに対するFTAを補償する語用論的手段であると言えるだろう。

B & L (1987) の説によると、「同じ集団の一員であることを伝える」表現を使うことで、「Sは暗に、Hとの共通基盤(common ground)を主張すること」が可能になり、その共通基盤(common ground)の標識には、「仲間ウチの呼びかけ

表現 (address forms) が挙げられる (田中 2011:144)。S が文末型 “是不是” を「認識喚起」として用いる時に、「呼称詞」型、「人称代名詞 + 動詞」型、「人称代名詞 + 動詞 + 呼称詞」型、「呼称詞 + 動詞」型という 4 種類とは頻繁に共起することが前節の考察で示唆された。しかも、文末型 “是不是” と「呼称詞」との共起表現には相手のフルネームがほぼ出現しないことが確認された。それは、フルネームを使うことが相手に「逃げ道を与えず、FTA に縛りつける」ことになり、「ポライトでない」からである (田中 2011:288-289)。このような方略は、B & L (1987) におけるポジティブ・ポライトネス (positive politeness)、具体的に言うと、「共通基盤を主張せよ」というメカニズムにおけるストラテジー 4「H と仲間うちであることを主張せよ：仲間うちであることを示す標識を用いよ」という部分に当てはまるのではないかと考えられる。

まず、親しい人に対して、S が文末型 “是不是” の前後に「氏名」(愛称 (diminutives) や親愛を表す呼称 (endearments) など) と「親族名称」などを付け加える。このような共起表現は、B & L (1987) における「仲間意識を強調する機能」(田中 2011:144) を持つと考えられる。(5) では、S (「文他娘」) が「这样式还真上眼哪 (このデザインは目に入るね)」という O を H (「一郎」) に伝達しようとしている。(6) では、S (「颖轩」) が「起来干什么 (起きたら何をするの)」という O を H (「景琦」) に伝えて共鳴を求めようとしている。相手呼びかける時に相手のフルネームではなく下の名前と親族名称を利用した。そして、(7) のように、場合によっては、「小胖子」(ポッチャリちゃん) のような呼称詞は文字通りの描写ではなく、心情と結びつくものとして捉えられ、「スモール・トークの指標」として働き、「話題全体に親しい雰囲気添える役割」を果たしている (田中 2011:145)。

## (5)

秀儿换了件衣服进来，半截袖，藏蓝的底，小白花。文他娘说：“秀儿，什么时候添了这么件褂子？”秀儿说：“才做的，就用你给俺的那块家织布。”文他娘说：“[别说这样式还真上眼哪！O] 是不是，一郎？” 一郎笑笑说：“挺好看！”  
(高满堂，孙建业《闯关东》)

(秀児は着替えて入ってきた。半袖で、紺色の地に小さな白い花。文のお母さんは「秀児、いつこんな羽織を作ったの。」と言った。秀児は「作ったばかり。頂いた布で作った。」と言った。文のお母さんは「[このデザインは目に入るね！O] そうだろう、一郎。」と言った。一郎は笑って「とても綺麗だ！」と言った。)

## (6)

(白文氏) “你怎么了？快吃晌午饭了还不起？”  
颖轩：“[起来干什么？O] [大眼儿瞪小眼儿，不够懊头的。R] 是不是儿子？”  
景琦应着声：“没错儿！”

(郭宝昌《大宅门》)

((白文氏)「どうしたの。もうそろそろ昼ごはんのになぜ起きないの。」  
穎軒「[起きたら何をするの。O] [大きい目が小さい目をじっと見るだけで、悩ましくてたまらない。R] そうだろう息子。」  
景琦は答えた。「間違いない！」)

## (7)

“你看，小胖子！刚入了银行几天就长行市！[别！你得赏我个脸！O]” 赵子曰一半嘲弄一半劝导着说：“[我们，连欧阳在内，全不是坏人，可是都有些小脾气；谁又不是泥捏的，可那能没些脾气！R] 是不是，小胖子？你不愿和他深交呢，拉倒；[可是你得看在我——你的老大哥——的脸上，到一处喝盅酒，O] 以后见面好点头说话！……”  
“我问你，” 莫大年有些活动的意思了：“你给我们调解，有老李没有？”

(老舍《赵子曰》)

(「ほら、ポッチャリちゃん！気位が高くなったね！[やめて！僕に面子を頂戴！O]」趙子曰は半ば揶揄半分に説得して言った。「[僕たちは歐陽も含めて、全部悪い人ではないが、悪い性質を持っているの；だれが泥で作ったのではあるまいし、それでは怒る気がないわけがないよ！R] そうだろう、ポッチャリちゃん？彼と親しくなりたくなかったら、別にいいけど；[僕——お前の兄——の面子を配慮して、一緒にお酒を飲んでなさい。O] 後で会ったら会釈できるから……」

「ねえねえ、莫大年は少し心が動いた。「仲裁してくれた方には李さんがいるの？」)

この他に、「三元」(三元)、「老杨」(楊さん)、「宝贝儿」(ハニー)、「我的太太」(女房)、「弟兄们」(男同士が親しい仲間を呼ぶ語) などのような呼び方は「Sが相手との間の相対的P(力関係、社会的地位の違い)を小さくするものと考え、命令文をソフトにする」役目を果たすと考えられる。

次に、初対面の人に対して、Sが文末型“是不是”の前後に「老太太(お婆さん)」のような「社会通称」などを利用することで、一般的親切さ(kindness)を表す。(8)では、S(「我」)がH(「老太太」)に「您就在这儿住吧(ここに住んでください)」というOを伝達しようとしている。(9)では、S(「那蹲着的黑影=老头子=他」)がH(「我」)に「真冷呀，再没有比这里更冷了(寒いね。ここより寒いところはないね)」というOを伝えようとしている。相手に呼びかける時、「あなた」「君」「お前」のような第二人称代名詞を使わず、「老太太」「先生」のような社会名称を選んだ。勿論、受け手(recipient)が「親しみを持たれている(familiar)」という前提が必要であり、このような共起表現は、B&L(1987)における「FTAの脅威を緩和する働き」(田中2011:169)をすると捉えられている。

(8)

我抹了抹眼睛。“老太太，〔您就在这儿住吧，我准把那点病治好了。O〕〔这个病全仗着好保养，想吃什么就吃：吃下去，心里一舒服，病就减去几分，R〕是不是，老太太？”老太太的泪又回来了，这回是因为感激我。

(老舍《开市大吉》)

(私は目をこすった。「お婆さん、〔ここに住んでください。私がきっとその病気を治します。O〕〔この病気はすべて養生に頼っている。食べたい物を食べる：食べたら心の中が楽になると、病気を少しずつ減らせる。R〕そうだろう、お婆さん。」お婆さんの涙がまた戻ってきた。今回は私に感謝したからである。)

(9)

那蹲着的黑影，接了我的一枚铜板，就高兴地站起来向我搭话，一面抱怨着天气：“真冷呀，再没有比这里更冷了！O〕……先生，你说是不是？”

看见他并不是个讨厌的老头子，便也高兴地说道：“乡下怕更要冷些吧？”

“不，不。”他接着咳嗽起来，要吐出的话，塞在喉管里了。

(艾芜《冬夜》)

(蹲っている黒い影が、私の銅貨一枚を受け取って、嬉しそうに立ち上がって話しかけてきた。「寒いね。ここより寒いところはないねO)……先生、あなたが言えはそうだろう。」

嫌なおじいさんではないのを見て、私は喜んで言った。「田舎の方はもっと寒いだろう。」

「いえいえ。」彼は咳をし始めた。言葉を吐き出そうとしたら、喉の中に押し込んだ。)

文末型“是不是”と人称代名詞と動詞と呼称詞(address forms)との共起表現は、いずれの場合も、Sの伝達意図(communicative intentions)を円滑にHに伝える為の手段(means)・方式(mode)の一つであり、語用論における一種の婉曲表現(euphemism)と見なしても差し支えないと言える。

なお、話者が文末型“是不是”を「認識喚起」として用いる時に、初対面の人に対する「社会通称」及び目上の人に対する「役職名称」のような「you」回避の呼称を選択する現象も、ネガティブ・ポライトネス(negative politeness)における「Hを侵害したくないというSの欲求を伝えよ→その特定の侵害からS、Hを分離せよ→ストラテジー7：SとHを非人称化せよ」という項目に関連があると考えられる。

文末型“是不是”と「人称代名詞+動詞」型との共起表現において、下位タイプである“你+说+是不是”(あなたが言えはそうだろう)は、出現率が高いことが観察された。統語論的な角度から見ると二重質問の形になる為、省略されても非文にならない。しかし、語用論的なポライトネスが失われる恐れがある。“你说”(あなたが言えは…)のような言語表現は、相手(addressee)に向ける注意喚起語(attention-getter)の一種であると言っても過言ではない。それに、発話においてSがHの、命題の是非ではなく、命題の是認(approbation)に対する同意(agreement)・共感(sympathy)への欲求(wants)と言えるだろう。

こうした言語表現はB&L(1987)の「共通基盤を主張せよ」というメカニズムにおいて、ストラテジー7「共通の視点・意見・態度・知識・感情を主張せよ：共通基盤を想定・喚起・主張せよ」という部分と関係深いと唱えたい。このストラテジー

において、B & L (1987)はいくつかの具体手段を取り上げている。例えば、「You know / 你说」などを使用するように「視点の切り替え」(point-of-view 'flip')を遂行させる(田中2011: 162-163)。(10)では、S(「高大山」)がH(「警卫员+胡大维」)に「还是这里的空气好哇(やっぱりここの空気がいいね)」というOを伝達しようとしている。(11)では、S(「淑贞」)がH(「丹丹」)に、「娘想省出一张嘴来。娘想……想把你送给梁伯伯家当儿媳(お母さんは一人分の食糧を節約したいの。お母さんは……君をお嫁さんとして梁おじさんにあげたいの)」というOを遂行させるためにRを述べている。「你们俩+说」と「你+说」を付け加えることで、まず文の形を平叙文から疑問文に変わり、それに、コミュニケーションの主導者をSからHに変更させた。このような「視点の切り替え」(point-of-view 'flip')の遂行は相手に逃げ道と主導権を与えるものであると言っても過言ではない。

(10)

高大山站住等他，放眼山林，情绪越来越活跃，说：“[还是这里的空气好哇，O]你们俩说是不是？”  
警卫员笑了。胡大维茫然地看他，不明白什么意思。

(石钟山《军歌嘹亮》)

(高大山が立ち止まり、彼を待っている。山林に目を向けると、ますます気分が活発になった。彼は言った。「[やっぱりここの空気がいいね、O]お二人が言うとそうだろう。」  
警備員が笑った。胡大維は意味が分からなくて、茫然として彼を見ている。)

(11)

“丹丹，娘想跟你商量个事儿。孩子，你看看啊，[我们一家三口人，就你徐伯伯留的那么一点儿钱。三张嘴再省，也吃不了多少日子。R1]”

“嗯。”

“[你，我，还可以挖点野菜、扒点树皮。可你弟弟田青不成，他太小，要不吃粮食，就没法养大他。R2]你说是不是？”  
“是。娘，我以后一粒粮食都不吃，全省给小弟。”她打了个哈欠要躺下。

淑贞拉起她，“听着，娘的话还没说完呢。丹丹，[娘想省出一张嘴来。娘想……想把你送给梁伯伯家当儿媳。O]”

(俞智先，廉越《走西口》)

(「丹丹、お母さんは相談したいことがある。見てみて、[我々は家族三人で、徐おじさんが残したお金しか持っていないの。三人でいくら節約しても、長期間維持できない。R1]」

「うん。」

「[あなた、私は野菜や木の皮を食べてもいいけど、弟の田青はだめだ。彼は小さすぎて、お米を食べないと、育てられない。R2]あなたが言うとそうだろう。」

「はい。おかあさん、これからは一粒も食べないで、全部弟にあげる。」彼女はあくびをして横になろうとしている。淑贞が彼女を引っ張った。「聞いて、お母さんの話はまだ終わってないよ。丹丹、[お母さんは一人分の食糧を節約したいの。お母さんは……君をお嫁さんとして梁おじさんにあげたいの。O]」)

そして、相手から肯定的な回答を想定できる付加疑問文・疑似疑問表現そのものは、「Hの願望や態度についての知識を前提にせよ」という手段を進行させる(田中2011: 168)。さらに、話者間が「暗に関連の事柄について同じ価値観を持つ」こと(例えば、成人としての常識、社会人としての良識や、共通の認識など)によって、ストラテジー7の発揮に一定の影響力が生じてくるとしている(田中2011: 168-169)。

### 3.3 「認識喚起に見られるネガティブ・ポライトネス(negative politeness)

話者が文末型「是不是」を「認識喚起」として用いる時に、呼称詞との共起表現において「役職名称」も多数観察された。このような表現は、B & L (1987)におけるネガティブ・ポライトネス(negative politeness)にも相当すると唱えたい。具体的に言うと、「Hに強要するな→脅威を最小化せよ→R, P, D値を明示せよ→ストラテジー5『敬意を示せ』」という項目である。ネガティブ・ポライトネス(negative politeness)とは、主として「Hのネガティブ・フェイス、つまり自分の縄張り(territory)や自己決定権を守ろうとするHの基本的欲求に向けられる」ストラテジーの一種である。忌避を基に(avoidance-based)し、「尊重、自由侵害しない、控えめ(self-effacement)、改まり(formality)、抑制(restraint)」などの

補償行為をして相手のFTAを部分的に満足させようとする(田中2011:91)。親切さを示すことを重要視するポジティブ・ポライトネスに対して、ネガティブ・ポライトネスは敬意を示すことに重きを置く。「敬意 (deference)」とは「話し手が相手や話題になっている人物に対して、その社会的地位の高さに配慮して示す社会的態度」(B & L, 1987) である。話者が「自分自身を低くして謙遜する」か、または、「相手を高める」かという正反対の方向性を持つ方法で相手への敬意を表明する。いずれにせよ、「HがSより社会的に上位にある」「Pの差が大きいという認識を持っている」ことを相手に伝えるのである(田中2011:250-252)。

目上(尊敬すべき・敬遠すべき)の人に対して、Sが文末型“是不是”の前後に「役職名称」などを用いることで、敬意 (deference) を表明する。(12)では、S(「许三多」)がH(「史今」)に「我今天表现不好(今日は私がよくできなかった)」というOを伝えようとしている。(13)では、S(「老张」)がH(「孙八」)に「办事(イベント)」の日期を「四月二十七(四月二十七日)」にするというOを伝達しようとしている。相手に呼びかける時、「史今」「孙八」のような氏名を使わず、「班长」「八爷」のような役職名称を選択した。こういう場合、「HがSより社会的に上位にある」こと、言い換えれば、「『相手との力関係』(power)の差が大きいという認識を持っていること」を、Sは直接的にHに伝えようとしている(田中2011:250)。このような共起表現は、Hに「何かを強要する立場に立つことが決してない」ことを示すことによって、B & L (1987) における「潜在的にフェイス威嚇的である行為の性質を緩和する効果」(田中2011:250)を持つ。

(12)

许三多呆在床上，不翻了，他借窗外的月光，怔怔看着史今。

“[我今天表现不好，O] **是不是**，班长？”许三多突然轻声问道。

“现在不说这个，别打扰大家，别人还得睡。”

(兰晓龙《士兵突击》)

(許三多はベッドの上でぼーっとして、ひっくり返るのをやめた。窓の外の月光を借りて、彼は呆然として史今を見ている。

「[今日は私がよくできなかった、O] **そうだろう**、班长。」許三多は突然軽い声で聞いた。

「今はこれを言わないで。みんなの邪魔をしないで。他の方は寝るから。」)

(13)

(老张)“马车，饭庄我去定，到底那一天办事？”

“那是你的事，合婚择日你在行，我一窍不通！”孙八笑着说，自觉话说的俏皮。

(老张)“据我看，[四月二十七O][既是吉日，又是礼拜天。你知道礼拜天人人有‘饭约’，很少的特意吃咱们。可是他们还不能不来，因为礼拜天多数人不上衙门办事，无可借口不到。R] 八爷你说**是不是**？”

(孙八)“就是！”

(老舍《老张的哲学》)

((張さん)「馬車、食べる場所は私が決める。イベントの日は一体いつにするの？」

「お前のことだろ。日期を選択するのはお前が上手で、僕は全然わからない。」孫八は笑って言って、自分の話が可笑しいと自覚していた。

(張さん)「僕から見ると、[四月二十七日O]は[吉日だし、週末。週末だったら、みんな約束あるから、わざわざ我々の食事会に参加する必要がない。しかし、彼らは出席しなければならない。なぜかという、週末で事務の窓口が閉まるから、来られない言い訳がなくなるから。R] 八爺様、あなたが言うと**そうだろう**。」

(孫八)「そうだよ！」)

## 4 終わりに

本研究は疑似疑問表現文末型“是不是”構文の最も典型的な用法である「認識喚起」に注目し、B & L (1987) における語用論・ポライトネスの観点からその構造形式と意味機能について考察したものである。「認識喚起」とは、明示的に質問という形を取りながら、暗示的に勧誘・提案という意図を相手に伝達する命令文である。B & L (1987) の論説に従うと、「暗示的にその伝達が明瞭される仕方」の一種であると言える。まず、話者が文末型“是不是”を「認識喚起」として用いる

時に、主張を提示する以外には、「同列」型及び「逆接」型などの接続表現を使うことで積極的かつ婉曲的に自分の理由を述べている。また、話者が文末型“是不是”の前後に、親しい人に対する「氏名」と「親族名称」などを付け加え、初対面の人に対する「社会通称」などを利用することで、仲間意識を強調したり一般的親密さを表したりすることが示された。これは、B&L (1987) におけるポジティブ・ポライトネスに当てはまり、「FTAの脅威を緩和する働き」をすると捉えられる。さらに、話者は社会地位が自分より高い相手に対して文末型“是不是”を用いて勧誘・提案する際に、フルネームや第二人称代名詞のような呼称を回避し、「役職名称」を選択して敬意を表明する様子が窺えた。このような表現は、B&L (1987) におけるネガティブ・ポライトネスに従った結果であると考えられる。

## 参考文献

### 【日本語文献】

市川孝 (1978) 『文章論概説』教育出版。

宇都健夫 (2003) 「“是不是”を用いた『確認性疑問形式』」『東京大学中国語中国文学研究室紀要』6, 1-23, 東京大学文学部中国語中国文学研究室。

木村英樹・森山卓郎 (1992) 「聞き手情報配慮と文末形式—日中両語を対照して—」大河内康憲 [編] 『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』, 3-43, 東京くろしお出版。

許夏玲 (2017) 「勧誘の場面で用いられる否定疑問文はなぜポライトな表現になるのか」『日本学刊』20, 78-88。

曹泰和 (2018) 「“是不是NP/VP?” 疑問文の意味的特徴及び語用的機能—モダリティ及び類型論の視点から—」立命館法学別冊『島津幸子教授追悼論集—ことばとそのひろがり』6, 323-346, 立命館大学法学会。

張惠芳 (2008) 「『推量確認要求』用法の日中対照研究—情報伝達・語用論的な観点から—」『言語学論叢—オンライン版創刊号』27, 103-114。

中田聡美 (2015) 「中国語における“是”構文の意味と機能」大阪大学博士論文。

仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房。

蓮沼昭子 (1995) 「対話における確認行為—『だろう』『じゃないか』『よね』の確認用法—」仁田義雄 [編] 『複文の研究(下)』, 389-419, くろしお出版。

森山卓郎 (1989) 「コミュニケーションにおける聞き手情報—聞き手情報配慮非配慮の理論—」仁田義雄・益岡隆志 [編] 『日本語のモダリティ』, 95-120, くろしお出版。

楊明 (2018) 「コーパスにおける“是不是”構文に関する一考察」『地球社会統合科学研究』9, 91-101, 九州大学大学院地球社会統合科学府。

楊明 (2020) 「疑似疑問表現文末型“是不是”構文の有標疑問用法について—その日本語訳との対照を兼ねて—」『東アジア日本学研究』2, 105-112, 東アジア日本学研究学会。

### 【英語文献】

Brown, P., and S. C. Levinson. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press. (ペネロピ・ブラウン, スティーヴン・C・レヴィンソン [著]; 田中典子 [監修]; 齊藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子 [訳] (2011) 『ポライトネス: 言語使用における、ある普遍現象』研究社)

Goldberg, Adele E. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: University of Chicago Press. (A.E. ゴールドバーグ [著]; 河上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田優子 [訳] (2001) 『構文文法論: 英語構文への認知的アプローチ』東京: 研究社出版)

### テキスト及び用例出典

《現代汉语语料庫》(CCL) (北京大学中国語学研究中心) 用例出典:

艾蕪 (1943) 《冬夜》

老舍 (1928) 《老張的哲学》

老舍 (1928) 《趙子曰》

老舍 (1934) 《開市大吉》

老舍 (1939) 《東西》

老舍 (1940) 《殘霧》

追加テキスト用例出典：

阿耐 (2016)《欢乐颂》

常琳 (2012)《北京青年》

高满堂, 孙建业 (2009)《闯关东》

郭宝昌 (2003)《大宅门》

兰晓龙 (2006)《士兵突击》

石钟山 (2002)《军歌嘹亮》

俞智先, 廉越 (2009)《走西口》